



「見たり、聞いたり、探ったり」No.303

通算 No.454

青 木 行 雄

江戸城・東御苑 散策ツアーの御案内 認定NPO法人「江戸城天守を再建する会」

「江戸城木造天守」・再建の会は設立してから20年の歩みを重ねて来た。そして今も皇居大手門前にてチラシをくばり、請願署名活動、会報「江戸城かわら版」発行、SNS発信・その他の方法等で地道に活動が続けてきた。そして、皇居東御苑散策・お城見学ツアー等で再建への理解を深める為に案内人と共に散策の様子を紹介しながら、頑張っている。

〒101-0065 東京都千代田区西神田2-5-7 神田中央ビル505号

HP : <https://npo-edojo.org>

電話 03-6423-1882 FAX 03-6423-1897

こんな案内から、散策ツアーを案内している。

皇居東御苑にはかつて江戸城の本丸、二の丸、三の丸があった。石垣、櫓、門などの歴史遺構が点在し、美しい公園を楽しむことができる。天守台や天守の30分の1の模型など、この機会にガイドの説明を聞き江戸城跡の散策をお楽しみください。

江戸城の歴史

平安時代の末期(1150年頃)に秩父地方の秩父重継が江戸郷を継承し江戸重継となる。1457年に江戸郷は扇谷上杉領となり、部下の太田道灌が江戸城を築いて城主となり城下町を築いた。当時は土塁の上に築き、石垣はまだない。その後、上杉、北条と城主が変り、1590年豊臣の小田原攻めの後、徳川家康が北条の旧領関八州を与えられ、江戸に居を構えた。

家康は慶長5年(1600)の関が原の戦いで勝利、さらに慶長8年(1603)征夷大將軍就任を契機に、天下普請(全国の大名を動員)による江戸城の大修築を始めた。この頃はまだ大阪城に豊臣秀頼が健在だったこともあり、豊臣との最終決戦を意識した軍事的要素の強い城づくりが行われた。

その後、慶長20年(1615)大阪夏の陣で豊臣氏が滅び、徳川の天下が固まってくると、日常の政治や生活も考慮した修築が行われ(本丸御殿など)、寛永13年(1636)3代將軍家光の頃、ほぼ完成を見ることになった。なお、江戸城の石垣は自然石を積み上げる「野面積み」は少なく、石の接合面の隙間を減らした「打ち込み接ぎ」、「切り込み接ぎ」が多い。また、石垣の隅石を縦横交互に積み、強度を増した「算木積」が所々に見られる。

算木積では熊本地震で角の石垣が残り倒壊を免れた飯田丸五階櫓(奇跡の一本石垣)が記憶に新しい。

1. 大手門(下馬門)「大手町から入る門」

最も格式の高い門。櫓門の屋根には鯨が飾られている。明暦の大火(明暦3年(1657))で焼失。再建された大手門の櫓門も空襲で焼失。今は3代目。

一斉登城の日には江戸中から諸大名が競って数十人~数百人のきらびやかな大名行列で登城し、将軍謁見などの公務(儀式)に臨んだが、大手門で大名行列は馬から下りる必要があった(駕籠はOK)。そして行列の家臣は10数人に減った。多くの家臣は大手門(下馬門)前で主君が戻ってくるまで待機した。家臣たちは人事の噂話などをしていたことから下馬評の言葉の由来になったとも言われている。櫓門の屋根には鯨が飾られているが、鯨も3代目である。空襲で焼け残った2代目の鯨が枡形内に保存展示されている。

現在の大手門は2代将軍秀忠の時代の1607年に藤堂高虎によって完成した。大手門の特徴は高麗門と波櫓門ますがたとらぐちで枡形虎口を形成、狭い高麗門を入ると枡形の2方向の狭間(銃眼)から弓矢、銃にて攻撃。ここで敵を討ち取る様になっている。



大手門の入口。かなり一般見学者がいる。入口にて手荷物の検査で時間がかかった



大手門。この門が現在の門で2代将軍「秀忠」の時代、藤堂高虎により完成した門である

2. 大戸三の門(下乗門といわれる)

一般の大名はここで駕籠から降りて徒歩で中に入る。家臣も数人に減る。江戸時代はこの門の手前は濠で木橋が架かっていた。



現在門はないが、入口の右側に番所が見える

3. 同心番所(どうしんばんしょ)

大手三ノ門を警備する与力・同心たちの詰所で、不審者の有無等を監視していた。建物の屋根の瓦の
御紋は菊や葵、左三つ巴紋などが刻まれている。(その時代時代の所有者の家紋などが修理の際などに取
り付けられている)

4. 百人番所

江戸城最大の番所である。甲賀組(滋賀県甲賀
の精鋭武士)、伊賀組(服部半蔵が率いた伊賀武
士)、根来組(紀州根来寺の僧兵を中心とした鉄砲
軍団)、二十五騎組(黒田家家臣の中から選んだ精
鋭軍団)の4組の鉄砲百人組が昼夜交替で勤務し
ていた。各組は20人の与力と100人の同心で構成さ
れていた(元忍者たち)。新宿にある百人町は伊賀
組が住んでいたことで名がついたと言われている。



百人番所。かなり長い建物で見るからにすごい

5. 皇居東御苑内にある天守の模型

我が会では天守再建に努力しているが、宮内庁
で令和3年10月より、寛永度天守 1/30の模型を東
御苑に展示し、一般公開している。いかにすばら
しい天守か確認してほしい。



宮内庁で令和3年10月より、新らしく製作した江戸城
1/30の模型

6. 皇居のまわりに乱立の高層ビル

今東京駅の近くに木造の高層ビル日動火災ビル
が建設中であるが、写真で見えるクレーンがその
場所である。このビルが出来上ると見えなくなる
東京駅。



皇居の展望場所から、東京駅の丸いドーム屋根が見えた

7. 天守台

明暦の大火で焼失するまで5層6階の天守が聳
えていた。大火後、天守台は再建されたが、天守
は再建されなかった。

徳川家康が建てた天守が秀忠・家光と2代にわ
たり立て直されている。明暦の大火後、幕府は再
建のため、加賀前田家に命じ、現在残る石垣を作っ
たところで、時の將軍の補佐、保科正之(初代会



表側の天守台・高さ13m



裏側の天守台。日本一の天守台。さすがに大きい様子がよくわかる

津藩主、2代将軍秀忠の子、家光の異母弟)により、江戸の町の復興を優先し、天守再建は延期することになる。

その後何度か再建の話があったが再建されずに現在に至っている。

こんな事から我々の「江戸城天守を再建する会」は1638年(寛永15年)家光寛永度天守を建設することを目指している。

徳川家の天守は3城建てられた。

1607年(慶長12年)家康慶長度天守完成

1623年(元和9年)秀忠元和度天守完成

1638年(寛永15年)家光寛永度天守完成

1657年(明暦3年)明暦の大火で焼失

明暦の大火は明暦3年1月18日から20日まで、3日間に渡り江戸の町を約6割焼きつくし、死者が10万人とも言われている。別名「ふりそでの大火」とも言う。

江戸城天守台の石は瀬戸内海より運んだ白い花崗岩、伊豆半島の安山岩等が使われたと言うがその巨大さに圧倒される。以前裏伊豆の山の中に江戸城に使ったと言う石きり現場を見学に行った事があるが、残石がかなりあった。

江戸城跡は特別史跡に指定されており、文化庁の管轄であり、東御苑は宮内庁の管轄にある。そのため天守再建は数々の調整が必要となるが。

まだまだ、8. 北詰橋門、9. 汐見坂、10. 二の丸庭園、11. 梅林坂、12. 平川門、等々、散策は続くが、特に二の丸庭園に昭和天皇のご発案で、武蔵野の雑木林の再現と各都道府県、日本全土の木が植樹されている。自分の出身地の県木は何か等楽しみも大であった。

とにかく大手門入口の入城者の多さにはおどろくが、早く再建がかないあの広大な広場の奥に木造の天守閣がそびえる夢を見ながら頑張っている。

令和7年5月5日記

資料

我が再建の会パンフより